

ボストン出張報告

事務長 鈴木克己

6月20～26日の間、寺田理事長とともにボストン東スクール(BHS)を訪問しました。BHSの経営会議出席、学校活動および発表会視察を目的とした恒例の訪問です。

BHSは生前の北原キヨ先生の英断により1987年に開校され、現在はマサチューセッツ州の管理下にある自閉症児教育専門の教育機関です。開校当初、学園の教師が多数派遣され、北原イズムの移植を目指しましたが、日本人とは教育観が違うアメリカ人教師たちには、なかなか北原イズムが理解されず、BHSの自閉症児教育は長らく学園から派遣された日本人教師を中心に進められてきました。

ところが近年、創立後30年以上が経過するBHSには種々の変化が生じていることを感じます。



そのひとつは、アメリカ社会も自閉症児教育には早期教育が必要不可欠であるとの認識が高まり、ここ1、2年でBHSは多くの幼少児を迎えていることです。

そして、今のアメリカ人教師たちが、北原キヨ先生の「教育哲学」である自閉症児に寄り添う教育に対し理解が深まってきたことです。

6月23日に開催されたBHSの発表会では、教師たちの舞台上での動きが素晴らしく、生徒に近く寄り添い、またひとつひとつの演目の構成に全員の顔と成長を見せる工夫がなされ、実に感動的でした。

今回初めて舞台に立つ生徒が20名を超える(うち、3名が入学(転校)してきて2週間)発表会は、会場が割れんばかりの熱い声援と拍手を受けて2018年度の一年を締めくくりました。

6月24日には、スクールのエグゼクティブディレクター ケリー氏とドノバン校長とともに現在建築中のグループホーム Cape Cod Village を見学しました。ここは、スクールの卒業生の保護者 Bob & Lauren Jones夫妻が8年越しの奔走と努力の末、資金調達と地元7市のコミュニティとの関係構築を果して今年12月に開設される施設です。4エーカー(16,000平米超)の土地に1軒あたり4名のグループホーム4棟とコミュニティに開かれる交流棟1棟が建設中でした。

「東スクール、生活療法との出会いがなければ、今日の私たちはありません。社会そして人々の絆、信頼、そして希望の実現を得ました」Jones夫妻は声をつまらせながら話してくれました。

学園とBHSとの関係は親子から友人の関係へと進化し、今後ますます深まっていくことでしょう。

